

目次

はじめに	1
第1章 テクノロジー・アセスメントの系譜	3
1.1 アメリカにおけるTA	4
1.2 日本におけるTA	9
1.3 ヨーロッパにおけるTA	15
1.4 TAと社会の関わり	24
1.5 創造的な技術社会発展のために	33
1.6 オブジェクティブTA(Objective-TA [®])	36
1.7 まとめ	38
第2章 TAに期待される効果と誤謬	41
2.1 Objective-TA [®] 実施のインセンティブ	42
2.1.1 Objective-TA [®] に期待される効果	43
2.1.2 企業における実施とその利点	45
2.2 TAにおける誤謬	46
2.3 5つの誤謬	48
2.4 誤謬を避ける3つの原則	55
第3章 Objective-TA[®]の進め方	65
3.1 Objective-TA [®] の実施における留意点	66
3.2 Objective-TA [®] フレームワーク	69
3.3 フェーズ I 実施体制の構築と与件の整理・共有	70
3.4 フェーズ II Objective-TA [®] の実施	75
3.5 フェーズ III 成果のまとめ	91
3.6 フェーズ IV 報告	91

第4章 Objective-TA©のツール	93
4.1 解析手法 I 問題点を抽出し整理する方法	94
4.1.1 チェックリスト法	94
4.1.2 ブレーンストーミング法	96
4.1.3 デルファイ法	97
4.1.4 KJ法	99
4.1.5 関連樹木法	101
4.1.6 因果関係ループ法	102
4.1.7 マインドマップ法	103
4.1.8 産業関連分析法	106
4.1.9 プロファイルチャート法	106
4.1.10 順位付け法	106
4.2 解析手法 II シミュレーション手法	107
4.2.1 シナリオライティング法	108
4.2.2 ISM法	110
4.2.3 システムダイナミック法	111
4.2.4 クロスインパクト・マトリックス法	112
4.2.5 多変量解析法	113
4.2.6 LENS法	113
4.2.7 SINPL法	115
4.3 まとめ	117
第5章 Objective-TA©の実施例	119
5.1 Objective-TA©の留意点	120
5.1.1 誤謬を避けるための原則	120
5.1.2 与件の整理 ー技術内容の咀嚼ー	121
5.1.3 実施計画立案・作成	122
5.1.4 Objective-TA©の実施	123
5.2 事例研究(実施例1)	

超高層マンションでの常用エレベータの災害時利用	125
5. 2. 1 フェーズ I	
実施体制の構築と与件の整理・共有	125
5. 2. 2 フェーズ II (1)	
目的・目標・範囲・成果の共有	128
5. 2. 3 フェーズ II (2) 対象技術の把握	130
5. 2. 4 フェーズ II (3)	
対象技術を適用する「場」の把握	132
5. 2. 5 フェーズ II (4) インパクトの抽出	134
5. 2. 6 フェーズ II (5) インパクトの整理と分析	136
5. 2. 7 フェーズ II (6) 対応策の検討	138
5. 2. 8 フェーズ II (7) 総合評価	142
5. 3 事例研究(実施例2)	
工場更新における近隣住民説明会のための	
Objective-TA©	144
5. 3. 1 フェーズ I	
実施体制の構築と与件の整理・共有	144
5. 3. 2 フェーズ II (1)	
目的・目標・範囲・成果の共有	146
5. 3. 3 フェーズ II (2) 対象技術の把握	146
5. 3. 4 フェーズ II (3)	
対象技術を適用する「場」の把握	147
5. 3. 5 フェーズ II (4) インパクトの抽出	147
5. 3. 6 フェーズ II (5) インパクトの整理と分析	148
5. 3. 7 フェーズ II (6) 対応策の検討	149
5. 3. 8 フェーズ II (7) 総合評価	150
5. 4 まとめ	151
参考文献	153